

Handwritten Japanese calligraphy in black ink, likely the title or author's name, written vertically on the patterned background.

鏡 (Kagami) - A vertical character, possibly part of the title, written in black ink on the yellow flap.

Handwritten Japanese calligraphy on the yellow flap, possibly indicating a volume or page number.

~ 13
3756
21





北雪
美談
時代加美

應需吟光

上編七十四

門 へ 13
號 3756
卷 21

定價十錢

芝三島
山本与市

北香の美法

時代

うゑ



のめ草

と

時代物の鏡を論じて序よ代也

古来の琥珀の鏡より最上の名器こそ一も名聞魔王の仕室と浄瑠璃の
鏡との入意の世へ下まる乎上れる乎其定價の譯らねと阿吹婢女の常
器とよも己惚れと尚愈瑠璃出来たれ乎重の鏡鍊の手へ藉らざ
何の造作も奈梨の真似乎真の瑠璃とあるんからま乎鶴の字とまる山
がらま乎鑑よりけねのたる洋赤りはうとんくノホオホヨホキクライ舶来
パアく然たる浄瑠璃鏡の笑譚らした必瑠璃地獄の水ぬると天水桶
の天の鑑は照らして合せて亦も論せん

明治十三年十一月のるうを頃諸色至つる高價の最中
旧弊仕入まの下作者が直段と論せざいと易く序を

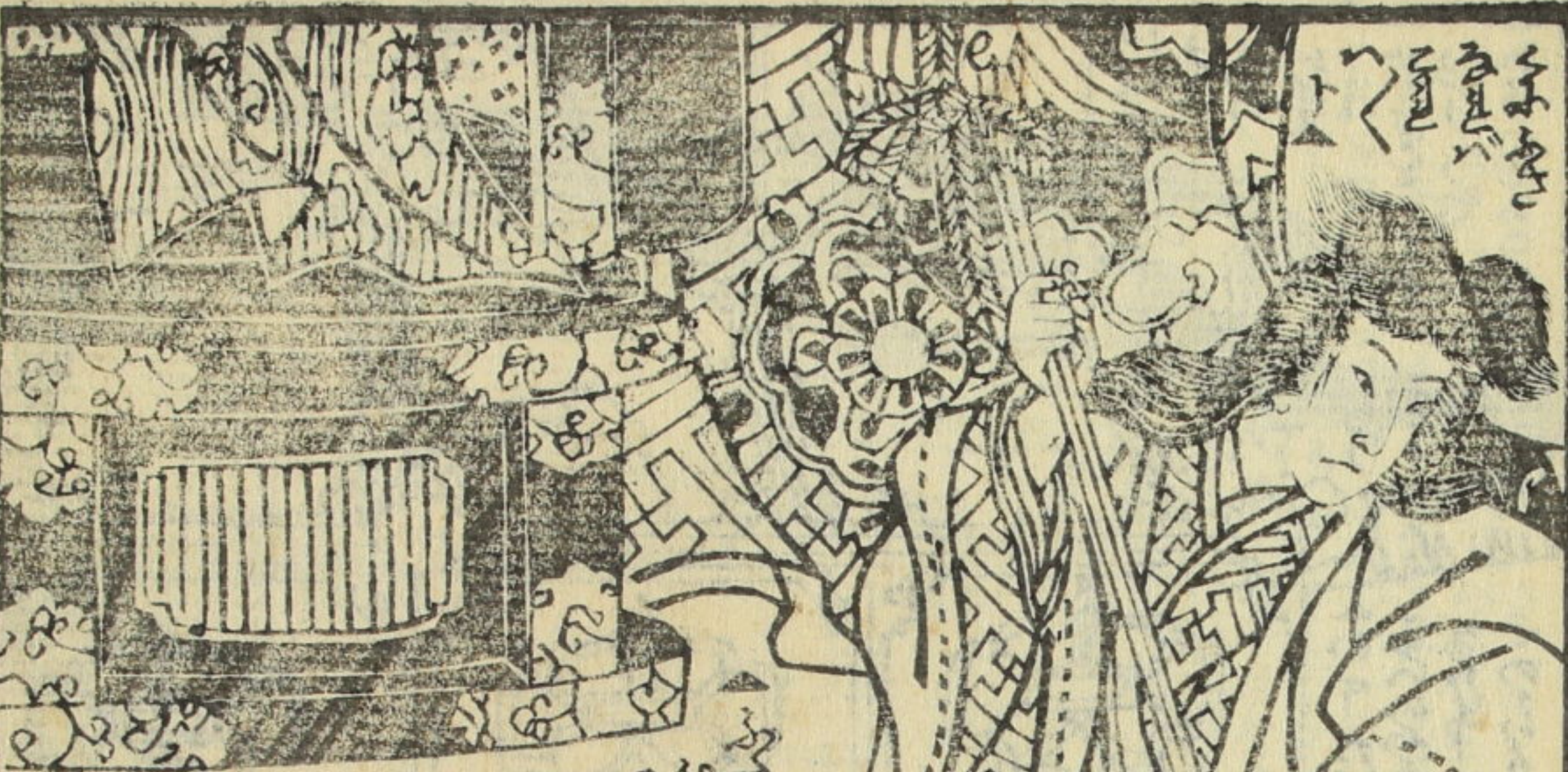
柳水亭種清



老姥 笹尾の局



未遊の妹子 江郎の於竹



今こそこそおれ
 とかりなしく
 身をまじりて
 矢田のらむと
 今こそこそおれ
 とかりなしく
 身をまじりて
 矢田のらむと

今こそこそおれ
 とかりなしく
 身をまじりて
 矢田のらむと

今こそこそおれ
 とかりなしく
 身をまじりて
 矢田のらむと

今こそこそおれ
 とかりなしく
 身をまじりて
 矢田のらむと



今こそこそおれ
 とかりなしく
 身をまじりて
 矢田のらむと

五平が物語りよ
英壽を見究罔

五平は物語りよ
英壽を見究罔



五平は物語りよ
英壽を見究罔

五平は物語りよ
英壽を見究罔



五平は物語りよ
英壽を見究罔

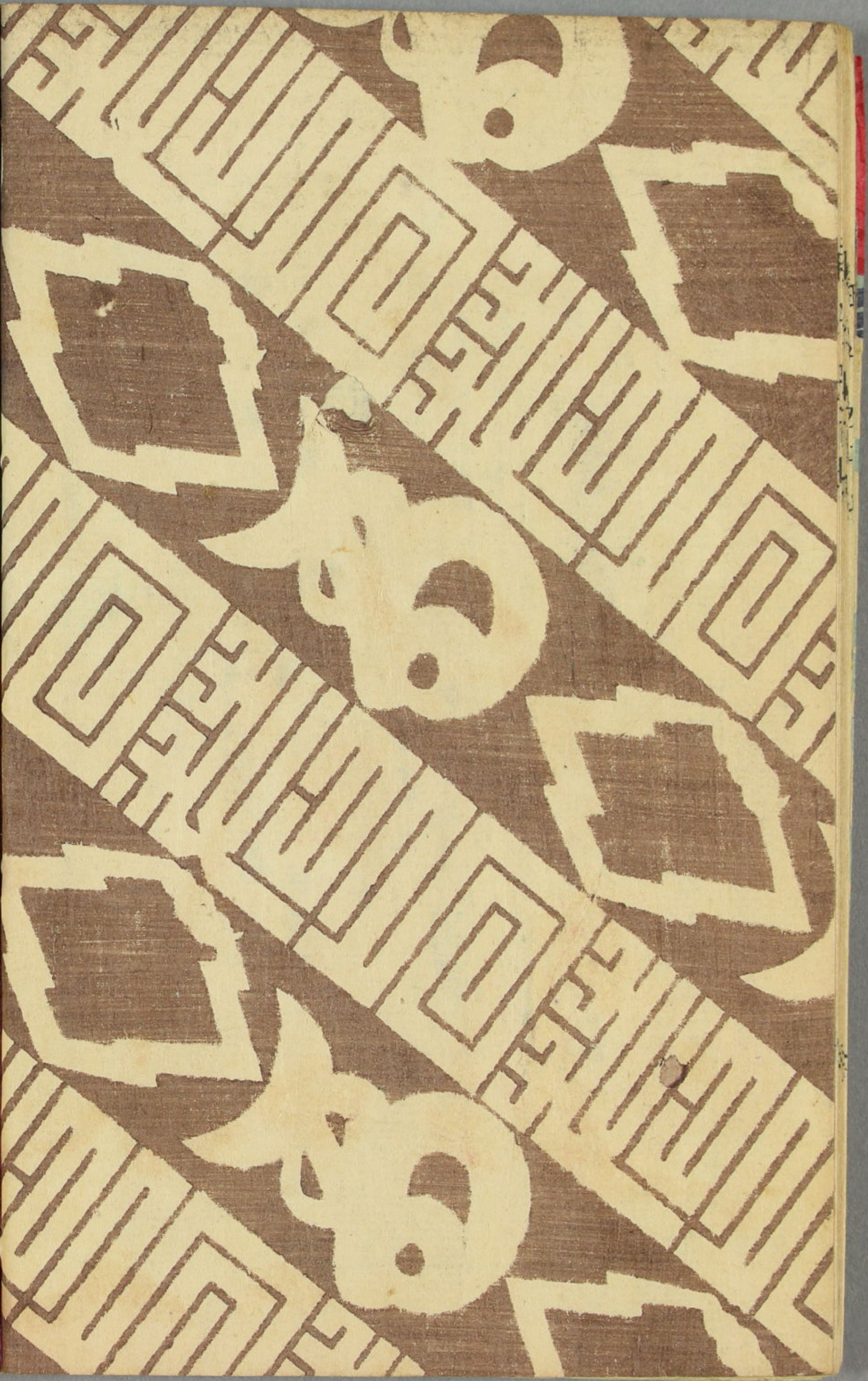
五平は物語りよ
英壽を見究罔



四十七編下

神歌
新歌
花板

白治十
新



つきあのくつらぎを
 ををみどりのあま
 うひとつらひのあま
 きのみまのあまのあま
 かひのあまのあまのあま
 かひのあまのあまのあま
 こまのあまのあまのあま
 りのあまのあまのあま
 あひのあまのあまのあま
 ののあまのあまのあま

▲まのあまのあまのあま
 りのあまのあまのあま
 きのあまのあまのあま
 ひのあまのあまのあま
 まのあまのあまのあま

■まのあまのあまのあま
 りのあまのあまのあま
 きのあまのあまのあま
 ひのあまのあまのあま
 まのあまのあまのあま

●まのあまのあまのあま
 りのあまのあまのあま
 きのあまのあまのあま
 ひのあまのあまのあま
 まのあまのあまのあま

つらひのあまのあまのあま
 をのあまのあまのあま
 うひのあまのあまのあま
 きのみまのあまのあま
 かひのあまのあまのあま
 かひのあまのあまのあま
 こまのあまのあまのあま
 りのあまのあまのあま
 あひのあまのあまのあま
 ののあまのあまのあま

▲まのあまのあまのあま
 りのあまのあまのあま
 きのあまのあまのあま
 ひのあまのあまのあま
 まのあまのあまのあま

■まのあまのあまのあま
 りのあまのあまのあま
 きのあまのあまのあま
 ひのあまのあまのあま
 まのあまのあまのあま

●まのあまのあまのあま
 りのあまのあまのあま
 きのあまのあまのあま
 ひのあまのあまのあま
 まのあまのあまのあま





ふぎのふぎ
 西平の母と
 花平の母と
 平八郎の母と
 平八郎の母と
 平八郎の母と
 平八郎の母と
 平八郎の母と
 平八郎の母と

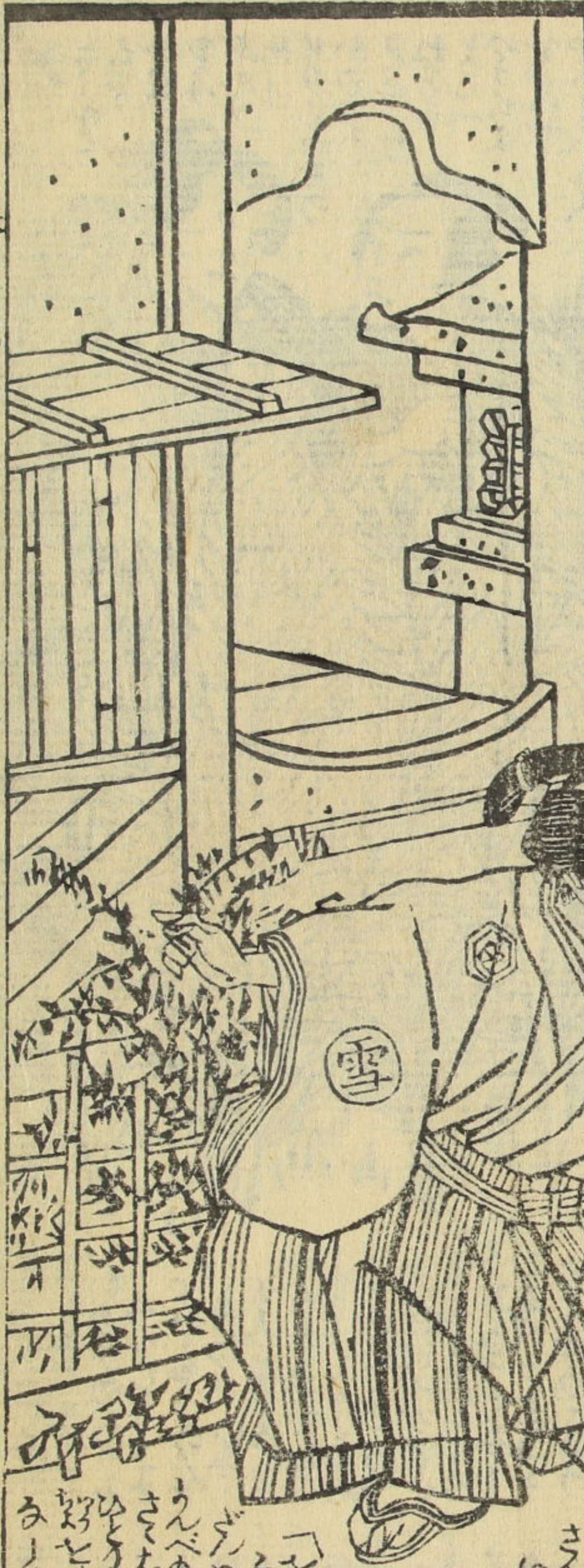
ふぎのふぎ
 西平の母と
 花平の母と
 平八郎の母と
 平八郎の母と
 平八郎の母と
 平八郎の母と
 平八郎の母と
 平八郎の母と

ふぎのふぎ
 西平の母と
 花平の母と
 平八郎の母と
 平八郎の母と
 平八郎の母と
 平八郎の母と
 平八郎の母と
 平八郎の母と



ふぎのふぎ
 西平の母と
 花平の母と
 平八郎の母と
 平八郎の母と
 平八郎の母と
 平八郎の母と
 平八郎の母と
 平八郎の母と

ふぎのふぎ
 西平の母と
 花平の母と
 平八郎の母と
 平八郎の母と
 平八郎の母と
 平八郎の母と
 平八郎の母と
 平八郎の母と



さくらあけの娘の人の
さくらあけの娘の人の
さくらあけの娘の人の
さくらあけの娘の人の
さくらあけの娘の人の
さくらあけの娘の人の
さくらあけの娘の人の
さくらあけの娘の人の
さくらあけの娘の人の
さくらあけの娘の人の

あつとちり
あつとちり
あつとちり
あつとちり
あつとちり
あつとちり
あつとちり
あつとちり
あつとちり
あつとちり

あつとちり
あつとちり
あつとちり
あつとちり
あつとちり
あつとちり
あつとちり
あつとちり
あつとちり
あつとちり

あつとちり
あつとちり
あつとちり
あつとちり
あつとちり
あつとちり
あつとちり
あつとちり
あつとちり
あつとちり

あつとちり
あつとちり
あつとちり
あつとちり
あつとちり
あつとちり
あつとちり
あつとちり
あつとちり
あつとちり

あつとちり
あつとちり
あつとちり
あつとちり
あつとちり
あつとちり
あつとちり
あつとちり
あつとちり
あつとちり



あつとちり
あつとちり
あつとちり
あつとちり
あつとちり
あつとちり
あつとちり
あつとちり
あつとちり
あつとちり

